

都市下水路事業

アナ： 『市長が語る 2021 三島』 第 16 回の今日は、「都市下水路事業」についてお話を伺います。豊岡市長、よろしくお願ひします。

市長： よろしくお願ひします。

アナ： 「都市下水路」という言葉、あまり聞きなれない言葉ですが、下水道とは違うのでしょうか。

市長： はい。

確かに、あまり聞きなれない言葉だと思います。

みなさんもお存じのとおり、下水道は、ご家庭から出る生活排水を道路下に設置された下水道管に流し、終末処理場で処理した後に河川に放流いたしますが、三島市では、雨水（あまみず）を、生活排水と分けて集める方式を採用しており、下水道に流すことはしていません。

といいますのは、雨水は、通常は側溝から河川に流れますが、大雨やゲリラ豪雨の際は、市街地の浸水の原因にもなりますので、速やかに河川に流す必要があります、その雨水の通り道として整備したものを都市下水路といいます。

アナ： 公共下水道とは別に都市下水路が整備されているのですね。

都市下水路の整備状況について教えていただけますでしょうか。

市長： 三島市内には、9つの都市下水路が整備されており、その総延長は約6キロメートルに及びます。

また、大場川の水位が上がることで、自然の流れでは排水できなくなる場所には、ポンプによって強制的に排水するための施設を整備しています。

アナ： ポンプ施設はどこに整備されているのですか。

市長： 都市下水路のポンプ施設は、安久地区の竹ノ下ポンプ場と大場地区の大場ポンプ場の2箇所がございます。

アナ： この2箇所のポンプ場について、詳しく教えていただいてもいいでしょうか。

市長： はい。

まず、安久地区の竹ノ下ポンプ場ですが、この施設は、最大で毎分500立方メートルの排水能力を持っております。

これは、1分間に小学校の25メートルプールの水を2杯分排水できる能力となります。

この竹ノ下ポンプ場は、大場川の最下流部にありますので、稼働率は高く、例年、年間5回程度ポンプの運転を行っています。

ちなみに、令和元年の台風19号の際には、22時間以上運転いたしました。

次に、大場地区の大場ポンプ場ですが、この施設は、最大で毎分114立方メートルの排水能力となっております。

これは1分間に小学校の25メートルプールの水を半分程度排水できる能力となります。

大場ポンプ場は、通常の台風で運転することはほとんどありませんが、令和元年の台風19号の際には、約14時間運転しました。

アナ： ポンプ場は非常に重要な施設なのですね。

市長： はい。

ただし、平常時は無人ですので、ポンプの運転のために職員が参集する必要があります。

そこで、より迅速に参集ができるよう、民間のクラウド監視システムを導入しております。

このシステムでは、大場川の水位の上昇について、段階的に状況が複数の職員にメールで同時通報され、水位の変化が逐次、職員のスマホで把握できますので、急激な水位の上昇が生じた令和元年の台風19号の対応時には、大変有効でありました。

アナ： 職員の参集が迅速にできるように改善されたのですね。

都市下水道事業では、ほかにどのようなことを行っているのでしょうか。

市長： はい。

都市下水道の水路については、堆積した土砂を取り除く作業を行い、ポンプ場については、定期点検や試運転を行って常に運転できるように努めています。

大場川の水位の上昇は、台風のように事前に想定できる場合もあれば、ゲリラ豪雨のように事前に想定できない場合もあり、市だけの対応が難しいのが現状です。

そこで、ポンプ場の設置当初から、地元の方と市が協力してポンプを運転する体制をつくっているほか、ポンプ操作員の操作技術を高めるため、ポンプの定期点検にあわせて、操作訓練を行っております。

このように、地元の皆様の協力を得ながら、危機管理体制の強化を図り、市民の生命、財産を守る体制を整えています。

アナ： 地元の方とも協力しながら危機管理体制を強化しているのですね。

市長： なお、昨年度、排水ポンプ車を2台導入し、雨天時に市の南部方面に溜まりやすい雨水排除に活躍しております。

アナ： 豊岡市長、本日はありがとうございました。

市長： ありがとうございました。